



福島放技ニュース

THE NEWS OF THE FUKUSHIMA ASSOCIATION OF RADIOLOGICAL TECHNOLOGISTS

2007

11月10日号

105
VOL.

発行所 社団法人 福島県放射線技師会

〒960-8003 福島市森合字蒲原16-7 TEL/FAX 024 (559) 1043

ホームページアドレス <http://fart.jp/>

巻頭言

福島県放射線技師会の当面の課題



会長 片倉俊彦

参議院選により政治の世界も大きく変化した。この変遷が従来の医療政策方針の見直しに繋がることを期待するところであるが、私たち放射線技師が直面する課題が直ちに直視される兆しはない。従って、私たちは周囲の騒々しさに惑わされることなく当面の課題について淡々と対峙すべきと考える。その課題は大きく二つである。一つは個々の放射線技師による業務の質の向上、他の一つは放射線技師の団体である技師会の公益法人制度改革に対する対応である。業務の質については医療行政の予算削減などの政策によって惹起されているものと考え、患者さんの側から見れば医療負担の増加はサービスの向上に依って償われると考えるのは当然であって、多少の行き過ぎはあるのもやむを得ない。

更に、近年の行政施策は医療提供者の収入も抑制する傾向が顕著であり、病院は年々厳しくなる経営状況から業界護送船団の考えを脱し、自らの生き残りを模索し始めている。この状況はスタッフの専門性やQC活動、学会活動実績などによる病院の質のアピールを行いより多くの患者さんの来院を図る病院ホームページが増えていることからわかる。

私たちとしては、一般的な地域住民が認識可能な形（例えば病院のホームページで研鑽の内容を紹介するなど）の専門職としての研鑽が唯一の対応であろう。

他の一つの課題は公益法人制度改革への対応である。社団法人福島県放射線技師会の目的は定款に示すとおり、福島県内診療放射線技師の資質向上を以て、地域医療へ貢献することであるが、限定された同一職種のみを対象とした活動の公益性や他法人（日放技）との関係における主体性など新公益法人への移行を前にその考え方を整理しておきたい問題も多い。しかしながら、最も基本的な問題は個々の会員が福島県放射線技師会の存在意義を認識することである。福島県放射線技師会は公益法人移行準備のため次年度から日本放射線技師会費と福島県技師会費を別々に納入していただく予定でいる。何となく曖昧であった日本放射線技師会と福島県放射線技師会の境界をキチンと理解していただくとともに、独立した法人がお互いに利用し合える形を模索したいと考える。蛇足ではあるが、福島県放射線技師会は個々の会員が創出する存在意義によって成り立っており、口を開けて待っていれば「はた餅」が落ちてくるような会ではない。患者さんの利益と自らのモチベーション向上のため会費のみでなくアイデアと労力の提供をもって、福島県放射線技師会を盛り上げていただきたい。

平成19年度 福島県放射線技師学術大会開催される

平成19年11月3日福島県放射線技師学術大会が福島県立医大講堂で開催された。

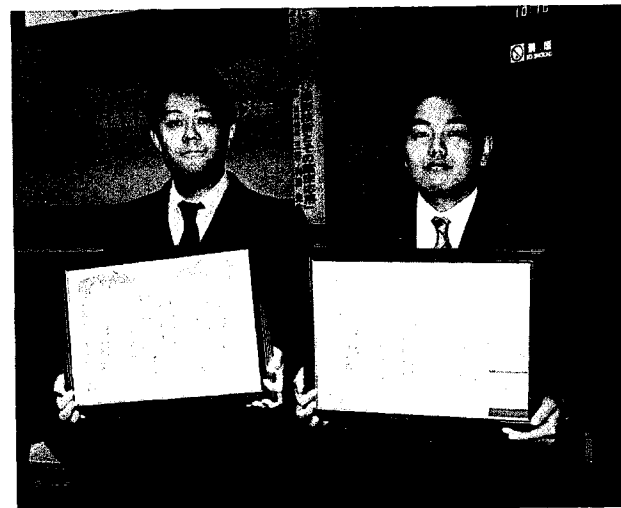
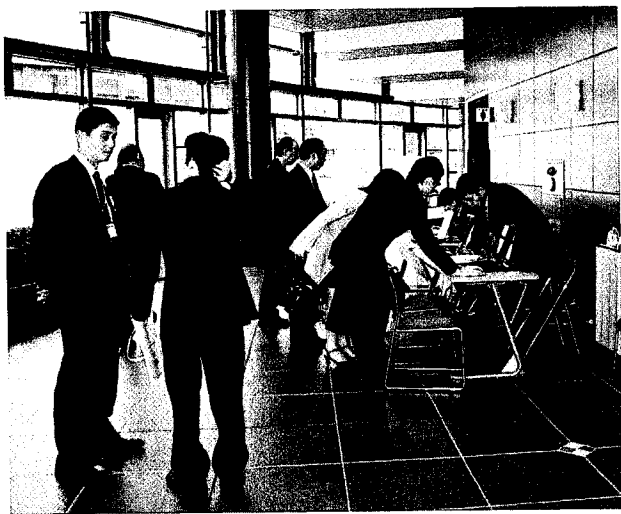
片倉会長の挨拶の後、平成18年度の学術奨励賞の授賞式が行われ、「4D-CTにおけるコーン角の影響に関する基礎的検討」公立大学法人福島県立医科大学附属病院 原田正紘氏、「外部照射におけるMUの検証」太田綜合病院附属太田西内病院 庭山 洋氏 の両氏に贈られた。

続いて学術発表が行われた、今年の演題数は29題でその内容は多岐に渡っているが、MRIに関するものが8題と最も多かった。

ランチョンセミナーとしての講演は、岐阜大学放射線部の三好利治先生による「腹部CT検査における造影及び撮像技術とその臨床応用」と題しての講演であった。

各部位における造影剤の時間濃度曲線を、臨床例から工夫して調査しそれらの基礎データを基に新たな臨床応用を検討する話で、一般に言われていることの裏付けが取れた様な説得力のある講演であった。

今年の参加者は180名と例年よりも多く、最後まで熱心に発表に耳を傾けていた。 (八巻)



県厚生連放射線技師会開催される

福島県厚生連放射線技師会(会長:吉田 豊 会員45名)は、10月27・28日の両日第36回技師研修会を郡山市磐梯熱海にて行った。

まず吉田会長からの挨拶から始まり、特別講演として白河厚生総合病院 浦部真平放射線科副部長より「核医学診療の進歩～single Photon からpositronへ」、最新技術報告として、東芝メディカル(株)より「東芝MDCTの現状と将来」と題して講演して頂いた。2日目には早朝から各メーカーによる展示会を開催して頂いた。この研修会は毎年開催されており、県内7施設の技師が全員顔を合わせる事の出来る唯一の機会となっており、その為か交流会後、夜のとばりが明けかける頃まで熱い議論で盛り上がるのが恒例となっている。会員からの研究発表はマンモ・CT・CR・ネットワーク等各部門からまんべんなく9演題が提出され、両日ともグループ病院的の気安さからか、活発な意見交換をする事が出来た。(幕田)



福島県自治体病院学会開催される

平成19年11月10日会津若松市において、福島県自治体病院学会が開催された。前年までは専門分科会毎の開催であったが、本年度は合同の開催となった。

県立会津総合病院の担当で準備が進められ、医師部門、看護部門、事務部門、臨床検査部門、放射線部門、薬剤部門、栄養部門が一堂に会しての学会となり、参加者も280名と多く、活気のある催しとなった。

各部門の研究発表の合間にランチョンセミナーとして「医療訴訟から見た医療安全への提言」と題して弁護士のか々美光子先生の講演、そして各部門の代表者による「地域に支持され信頼される病院を目指して」のテーマによるパネルディスカッション、さらには「自治体病院経営のこれから」と題して城西大学の伊関友伸先生の特別講演と充実した内容であった。自治体病院を取り巻く環境は年々厳しくなり、各部門でも新しい自治体病院の姿を目指し、体質改善の試みが始まったように思えた。

平成19年度検診従事者講習会(マンモ)

平成19年度福島県委託事業の生活習慣病検診従事者指導講習会(マンモグラフィ)は、8月25～26日の二日間にわたり、医大臨床講義室及び放射線部を会場に開かれました。今回の受講者は48名で、そのうち12名の方が資格取得から5年経過の更新試験受講者でした。

受講者のアンケート結果では、研修の内容と試験問題とは開きがあるとか、読影でも実習例と試験写真では判断の難しさがあるといった苦情があり、日頃から診断能力を養う必要があり、診断に適した写真の撮影法を十分習得した上に、テキストを事前に繰り返し理解を深めての受講が必要です。結果は、新受講者36名中、精中委の資格認定者(B以上)10名、更新受講者12名中資格認定者7名となりました。福島県の委託要件である資格者を増やすための対策も必要な時期のようです。



マンモグラフィ技術講習会に参加して

8月25、26日に、福島県立医科大においてマンモグラフィ技術講習会が開催されました。参加者は、新規参加が36名、5年毎の更新者が12名でした。今年から、資格取得から5年経過すると更新が必要になったための参加でした。更新者は若干内容が少なめになっていることを期待していましたが、新規者と変わらないプログラムで、休み時間もほとんど無く、講義と実習の予定が過密に詰まった2日間でした。講義は、テンポよくわかりやすい解説で重要な部分と思われるところは念入りに教えていただきました。また、実習は更新者同士のグループでしたが、講師の先生から“このグループは更新者で、分かっていると思うので、どんどん質問をしていきます”の決まり文句で始まり、緊張の連続でした。2日目の午後からは、40症例の読影試験と20問の筆記試験が行われました。読影試験は、所見のないものが多く、それが次々続くと不安がよぎりました。また、筆記試験は、テキストにも載っていないようなものが多く出題され、悩まされました。2日間に亘って、講師の先生方の熱い講義には、本当に感謝いたします。(浜通り支部 T)

会員異動 新会員25名迎える

入会者は、10月末現在で25名になりました。

鈴木 陽子(竹田総合病院)、鈴木 瞳(竹田総合病院)
 吉田佳代子(福島第一病院)、上田 哲幸(渡辺病院)
 平沢 康浩(有隣病院)、小松 幸子(有隣病院)
 板橋 聡(有隣病院)、大森 正道(新白河病院)
 緑川 鮎美(星総合病院)、宮下 昌之(呉羽総合病院)
 城戸 修(坂下厚生総合病院)、菅野 大樹(埼玉厚生病院)
 野崎 正博(会田病院)、内田 雄己(かしま病院)
 川澄 圭吾(かしま病院)、猪狩 優(かしま病院)
 出村 渉(太田西ノ内病院)、佐久間有理(わたり病院)
 永井 千恵(医大附属病院)、武田絵里佳(医大附属病院)
 柳沼 裕一(坪井病院)、上田 和代(総合南東北病院)
 正木 美奈(磐城中央病院)、白岩 大輔(入沢泌尿器内科)

再入会 四栗 一雄(石川島播磨重工相馬診療所)

転入 今野 清志(福島労災病院)、遠藤昌明(個人)、
 鳴原 暁彦(ホリスティカかまた)

転出 大森修(個人→茨城県)、野口昌興(金山町国保診療所→栃木県)、斎藤雅伸(福島病院→宮城県)、熊田真幸(坪井病院→東京都)、小野寺義晴(いわき病院→宮城県)、佐々木綾乃(竹田病院→岩手県)、宮城薫(医大病院→岩手県)

退会 滝田力夫、杉本邦雄、佐藤義史、八巻敏、大塚勝、
 本田利信、林ひろ子



県南支部

ファミリーフェスタ2007に出展しました

9月30日の日曜日、雨の降りしきる中、郡山総合体育館にて「ファミリーフェスタ2007」が開催され、県南支部も例年どおり出展いたしました。今回は“あなたの身体を守る放射線検査”～内臓脂肪はどうやって測るの?～というテーマで、最近話題のメタボリックシンドロームに関する内容で実施しました。パネル展示や腹部CT画像を利用して内臓脂肪面積を計測するソフトなどの紹介をしました。また、骨密度測定と血管年齢測定のデモンストレーションも実施し、途切れることのない来場者の列ができ大変盛況でした。

今回、実行委員会の保健部会ではスタンプラリーを実施し、県南支部ではクイズに答えていただいた来場者にスタンプを押させていただきました。しかし小学生以下の児童にはちょっと難しい問題であったため、首をかきげたり、答えに困ったりする子供たちが多く見受けられました。来年はもっと易しいクイズを考えたいと思います。(菅野)



県北支部

県北技師会が「健康フェスタ2007」に参加

去る9月29日(土)福島市保健センターにおいて「福島市健康フェスタ2007」が開催され、今年もそこに県北技師会が参加し大盛況のもと終了した。

今回は「最先端医療画像への取り組み」というテーマで、「ガン・心臓病」を中心とした医療画像の紹介や、PET-CT、マンモグラフィ、メタボリックシンドローム検査などについての写真やパネルの展示を行った。約200名の市民の方が技師会のブースを訪れ、最新医療や放射線技師会の活動について、大いにアピールすることが出来ました。

当日参加された役員の皆様、遅くまで大変にご苦勞様でした。(池田)



会津支部

第23回健康まつりの開催

平成19年9月2日(日)、会津若松市文化センターにおいて、健康まつりが開催されました。毎年恒例となっているこの健康まつりは、今回で第23回を数え、今年は「見直そう、自分の健康、家族の健康」をテーマにして、健康づくりに関する体験・相談・展示などがおこなわれました。

その中で福島県放射線技師会会津支部では、「からだの中をのぞいてみよう!」と題して、一般撮影・CT・MRI・マンモグラフィをはじめ、健康診断や人間ドックなどでも行われている放射線部門の検査について、さまざまな画像の展示をおこないました。

当展示コーナーを訪れた市民の方々は、普段なかなか見ることがない検査画像の数々に、物珍しそうに見ている人もいれば、少々気味悪そうに見ている人もいたり、各種検査装置の説明に興味津々と言った様子で聞いてくれる方もいました。中には、説明するはずのこちら側に勝るとも劣らないほどの専門的な知識を持っている方もいたりして、なんと答えに窮する場面もありました。また、ここ数年、全国的に乳がん検診が取り上げられているおかげか、今年は男性の方でもマンモグラフィのフィルムに対して興味を持ってくださる方が、例年よりも多かったようです。

この健康まつりは、自然環境を考える環境フェスタが同日開催されていることもあり、また晴天にも恵まれて、当日は大勢の市民で賑わい、大盛況のうちに終わることが出来ました。

(森谷)



浜通支部

浜通り支部夏期学術研究会開催される

平成19年9月1日(土)午後2時よりいわき市立総合磐城共立病院第一会議室において、浜通り支部夏期学術研究会が開催されました。今回は口腔領域のテーマで、いわき市立総合磐城共立病院 口腔外科部長 内藤弘之先生に「口腔外科領域の画像診断」、株式会社ヨシダ 学術営業本部 インプラント部 石川修治先生に「インプラント術前シミュレーションソフト及び歯科用CT」という演題でご講演を賜りました。

内藤先生からは「知ってもらいたい口腔領域の疾患と治療」と題し、疾患の種類や治療方法をX線画像やCT画像等を用いたスライドで細かく説明して頂きました。

また、石川先生からはインプラント術前シミュレーションソフト「シムプラント」の説明があり、その後、歯科用CTが造られた背景やその種類等の説明がありました。歯科用CTはコンビームのX線を用いた撮影で一回転19秒の撮影で終了するとのことで、我々が日常使用している全身CTとは明らかに違いイメージじぶらい医用CTでした。会場からは「シムプラント」に対して、その他の手術用シミュレーションソフトとして使用することはできないのかとの質問があり、詳しいソフトの説明はありませんでしたが、系列会社で販売しているとの説明がありました。

(鈴木)



第3回 相双画像診断勉強会開催される

平成19年9月5日(水)午後6時45分から南相馬市原町区のホテルラフィーナにおいて、26名の参加者のもと第3回相双画像診断勉強会が開催された。大原綜合病院放射線科の森谷浩史先生を招き「頭部画像診断 CT、MRIを中心に」と題して講演会が行われた。内容は、頭部領域でのCT、MRIの特徴を考慮した検査目的と留意事項などについてや、CTとMRIの症例画像をシェーマを用いて講義してもらい、その病気のイメージを分かりやすく学ぶことができました。

さらに、勉強会終了後、先生を囲み懇親会が開かれ、様々な意見交換や情報交換が盛んに行われました。(花井)

編集後記

予定では10月号のつもりでしたが、月遅れの発行になってしまったことを、お詫びします。

県技師会は、公益法人の取得に向けて準備を進めています、日放技との関係など先行き不透明ですので注意深く見守ってください。(八巻)